事例No.	647
公表年度	H29
団体の属性	一般市
団体名	宮城県塩竈市

事例区分	公営企業

タグ	・交通事業 ・新たな政策手法の確立・活用 ・（行政改革）業務の効率化

事例種類	民間活用

事例内容・タイトル

交通事業会計経営健全化計画（経営戦略）の策定について

出典

地方公営企業の抜本的な改革等に係る先進・優良事例集

○ 事例名等

事例名	交通事業会計経営健全化計画（経営戦略）の策定について
団体名	宮城県塩竈市
事業名（事業区分）	交通事業（船舶事業）

○団体及び事業の概要

行政区域内人口（人）	55,233	行政区域内面積（㎢）	17.37
事業開始年月日	昭和19年8月19日	営業路線（km）	11.6
年間走行距離（km）	60,000.0	年間輸送人員（人）	167,974
在籍車両数（両・台）	3	職員数（人）	13

※表中の計数はH29年３月末時点

1．取組の背景、検討を開始した契機・導入過程

(1)取組の背景

塩竈市では、浦戸諸島の人口減少や国の離島航路補助金の見直し等により厳しさを増す経営環境を踏まえ、平成17年5月に「第１期塩竈市交通事業会計経営健全化計画」（平成16年度～平成25年度の10か年）を策定し、運賃改定による増収や船舶の小型化を始めとした運航経費の見直し等を実施し、収支不均衡の是正に向けて努力してきた。

今回、第1期計画が終了したことから本計画を改定し、「第2期塩竈市交通事業会計経営健全化計画」を策定することにした。

(2)検討を開始した契機・導入過程

平成23年3月に発生した東日本大震災の影響により、浦戸諸島の人口や島を訪れる観光客は減少している。また、基幹産業である浅海漁業の復興も道半ばであることから、貨物量も落ち込んだままとなっている。

そうした中、「第2期塩竈市交通事業会計経営健全化計画」は、浦戸航路が島民の豊かな暮らしと地域の活性化を実現し、震災復興の架け橋となるべく、持続的な航路運営を可能にするための基本的な方針と具体的な施策を提示するため策定したものである。

2．取組の具体的内容とねらい、効果

(1)取組の具体的内容とねらい

「第2期塩竈市交通事業会計経営健全化計画」の策定にあたり、浦戸諸島の現状と見通しや汽船運営の現状と課題について検討を行った。

浦戸諸島の人口の現状と将来の見通しや漁業、観光・交流人口等の見通しなど、基礎データの検討を行うと同時に、決算状況の分析、全国離島航路運営事業者との比較分析、損益分岐点乗船者数の検討、民間委託可能性調査、経営健全化シナリオと効果検証等の経営診断を行い、同時に、島民アンケート調査、島外利用者アンケート調査、島民懇談会、旅行会社への聞き取り調査等を実施し、改善点や要望、満足度等を把握した。

(2)効果

経営健全化のための課題を明確化し、基本方針を設定した。

①航路の永続性を確保する環境整備の推進
②浦戸諸島の震災復興を支える取組の推進
③利便性向上の推進による利用促進
④運航体制の最適化と経営基盤の強化
⑤広報及び営業力の強化

また、本航路の経営健全化に向けた方策として、上記5方針の下に取り組む重点施策・事業を設定した。

重点施策・事業一覧

事　業　名　称	実　　施　　内　　容
(1)航路の永続性を確保する環境整備の推進	
①塩竈～浦戸航路愛称募集事業	市民に親しみやすい愛称を募集・付与することで本航路の知名度向上を図り、市民の関心を高める。
②「浦戸へ行こう」キャンペーンの展開	島民以外の幅広い市民に対し、浦戸諸島を「知る・見る・触れる」機会を創出しながら、浦戸諸島や市営汽船の価値を再確認していただく。 具体的には、年数回のキャンペーンを実施し、市営汽船の利用促進と浦戸諸島との交流拡大を図る。
③住民懇談会	浦戸諸島の住民と定期的に意見交換する機会を設け、利用ニーズや要望を把握するとともに、市営汽船の運営について情報を提供し、相互理解を深める。
(2)浦戸諸島の震災復興を支える取組の推進	
①海産物の輸送支援	浦戸産の牡蠣・海苔等の海産物輸送を支援し、基幹産業の復興を促す。
②ボランティアの輸送支援	復興ボランティアに対する運賃割引制度を継続して実施する。
③「Friend ship！ゆるキャラ丸」の運航	災害相互応援協定を結んだ村山市、須坂市、碧南市、養父市、震災復興支援職員を派遣していただいた横浜市、倉敷市、南城市などの「ゆるキャラ」を船体にあしらい、震災復興の象徴として運航させる。
(3)利便性向上の推進による利用促進	
①利用ニーズを踏まえたダイヤ見直し	要望の多い塩竈発11時台の定期便化や夜間便の定期便化の実現を図る。
②市営汽船乗り場の整備	現在計画中の「津波防災拠点施設」の整備に合わせ、市営汽船の発着案内や発券業務、待合環境を充実する。
③二次交通の改善	市内の公共交通網のネットワーク化に寄与するよう、市営汽船と陸上交通（主にバス）との乗り継ぎ利便性を改善するための検討を行う。

さらに、経営健全化計画の推進に向け、実質的市負担額（一般会計からの繰出額）を指標とした数値目標を設定し、計画を遂行することとした。
平成26年度決算見込　14,800千円　→　平成36年度（計画最終年度）　5,200千円

3．他の自治体の参考となる点、今後の課題等

(1)他の自治体の参考となると考えられる点
浦戸諸島の人口は、今後も減少することが予想され、航路運営はさらに厳しさを増してくると考えられるが、島民にとって唯一の交通手段であることから、意見交換や説明会など、要望を把握するとともに市営汽船の運営について情報を提供し、相互理解を深めることができた。

(2)今後の課題等
島内人口の減少や復旧・復興事業の終了による利用者減など、経営状況が厳しくなるため、浦戸の魅力や島のイベント等の情報をホームページやフェイスブック等により積極的に発信し、交流人口の増加による利用促進を図ることが必要。
また、数値目標の達成に向けて、進捗状況や施策・事業効果の評価、それらに基づく施策・事業の改善見直しを適宜行いながら、経営健全化計画を推進していく。

〇問合せ先

担当課	塩竈市産業環境部浦戸振興課		
TEL	022-361-7710	MAIL	urato@city.shiogama.miyagi.jp